

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	阪急阪神リート投資法人
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	大阪市北区茶屋町19番19号
工場等の名称	メッツ大曽根
工場等の所在地	名古屋市東区矢田二丁目1番95号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	家電、家具、衣料、スーパー、飲食店など各種テナントを集合
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月13日 ～ 令和5年10月11日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所）メッツ大曽根 管理室（防災センター）
		ホーム ページ	（HPアドレス） https://mets-ozone.com
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-725-2300		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動を通じて温室効果ガスの排出抑制に取り組みます。

1. 環境施設の継続的・計画的な改善を図ります。
2. 省資源・省エネルギーの活動を推進します。
3. 廃棄物の排出量を抑制し、リサイクルを推進します。
4. 従業員への環境教育を積極的に行い、社外に対しては、環境情報の公開を進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

【阪急阪神リート投資法人】

【東急コミュニティー 東海ビル運営部】

地球温暖化対策担当



【メッツ大曽根 管理室】

館長

管理運営会議 ― 地球温暖化対策担当

(東急コミュニティー 設備担当)

店長会議 ―― 各テナント従業員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,637	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,637	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス総排出量	1,650	t-CO ₂	1,625	t-CO ₂	1,637	t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）			1.5	%	0.8	%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの排出量									
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
原単位あたりのみなし排出量									
削減率（対 基準年度）						%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和4年度の温室効果ガス総排出量は前年度比0.8%減少しました。特に電力使用量は前年度比4.3%減少。主要因は電力使用量の多いテナントでの冷蔵庫更新と推定されます。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理／エネルギー使用量等の把握および管理	・エネルギー使用量を毎月記録し、増減分の把握に努め、分析を行う。		・電力使用量は日単位で確認・記録を実施。 ・各テナントのエネルギー使用量を毎月記録。変動大の場合は店長へ連絡し空調等使用状況を振返って貰う様にしている。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	・夏季はブラインドにより熱負荷を減らし、中間期は外気冷房を実施し、空調機の運転時間を削減する。		エスカレータホール実施例： ・ロールカーテンは夏冬は全閉、中間期は予想天気で調整。 ・出入口開閉は季節により自動・開放を運用選択。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	・空調機や給気ファンのフィルターを定期的に清掃し、運転効率の低下を防ぐ。		・共用部での定期的フィルター清掃を継続実施。 ・各テナントにも、定期的にフィルター清掃を行うよう依頼している。
省エネルギー・省資源の推進／照明	・日入時刻に合わせて、外壁のサイン灯・風除室の照明等をタイマーで点滅させる。 ・LED照明への取替えを進める。		・日入時刻が15分変動するごとに、外壁サイン灯等の点灯時刻調整を実施。 ・照明のLED化はほぼ完了。
廃棄物の排出抑制等	・コピー用紙の使用量削減に努め、廃棄量の減少を目指す。		・情報共有システムにより資料SCAN含む業務ペーパーレス化を継続実施。 ・パソコンによる印刷をなるべく節約することにより、紙使用量の削減を心がけている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

（３）環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

	t-CO ₂
--	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

雨水を貯留・濾過した後、雑用水として、トイレの流し水・熱源設備用冷却水・消防用水（消火栓・スプリンクラー）に使用している。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

通勤や出張では、極力、公共交通機関を利用している。